

演題名:

哺乳期初期における哺乳時の乳首及び口腔内形態変化の観察：エコーによる舌運動の水平断面分析

斉藤哲<sup>1)</sup>、大杉佳美<sup>1)</sup>、林良寛<sup>2), 3)</sup>

ピジョン(株)中央研究所<sup>1)</sup>、石心会さやま総合クリニック<sup>2)</sup>、Japan Green Medical Centre<sup>3)</sup>

抄録本文:

#### 【目的】

哺乳時、舌が蠕動様運動と呼ばれる波動状の運動をすることにより、乳首に吸引をかけて母乳汁を引き出すことがわかっている。この蠕動様運動は、エコーによる矢状断面分析から分かってきたことであるが、水平断面による舌運動は観察例がなかった。より詳細に舌運動を理解するために、今回、矢状断面の観察に加えて、舌および口腔内の水平断面による分析を試み、舌運動を立体的に把握することを検討した。

#### 【方法】

P 社モニター制度に登録し、母乳哺育をしている児 3 名を対象とし（平均在胎週数：39.5 週/平均出生体重：2846 g/観察時平均週齢：7.6 週）、直母および人工乳首哺乳時の、矢状断面および水平断面の口腔内超音波断層撮影（以下エコー）を行った。エコーは ALOKA Prosound α7 を用い、プローブとして 10MHz の小型コンベックスタイプを使用した。プローブを児の口角付近から頬部にあてることにより、乳首および舌、口腔内の水平断面画像を観察した。倫理的配慮として、文書による同意を保護者から得た上で観察を行った。

#### 【結果】

エコーと外観観察の結果から以下のことが確認された。1)直母哺乳時、舌運動に合わせて乳首全体が口腔内奥に引き込まれる様子が観察された。この引き込まれ現象は、乳首の根元から先端に向けて順次絞り込むような運動であり、矢状断面では観察できなかったが、水平断面においては顕著に確認できた。2)人工乳首哺乳時には、直母時に確認された引き込まれる現象は観察されなかった。

【考察】従来、エコーによる矢状断面分析では、乳首は口蓋側で固定され、舌側の波動運動により波状にしぼられる様子が顕著であるが、水平断面の分析では、舌および口腔内器官による乳首に対する左右両側方向の絞り込みと引き込みが確認された。今後、舌運動を立体的に詳しく研究していき、舌運動、乳首の動き、母乳の流れ、嚥下の様子を包括的に検討していく予定である。